

シテ・レトル  
**CITE**  
LETTRE

2023  
September  
Vol.88 **9**

In order to promote the creation of an attractive Osaka, public and private spheres must link up and work together. The CITE Salon is an organization created as a forum for such collaboration. It was set up in January 1992 as membership organization with the slogan "Vibrant and Attractive Town Building towards a New Era"

リーダーズ・インタビュー

パナソニック ホールディングス株式会社 取締役 副社長執行役員  
宮部 義幸氏

地域と地球のこれからを見据えた  
未来志向の取り組みへ



大阪・関西万博「パナソニックグループパビリオン」完成予想パース(パナソニック ホールディングス株式会社ご提供)

研究活動委員会

テーマフォーラム／圏域研究会 中間成果報告会

分科会活動委員会

ワークショップ進捗

総務委員会

2023年度新体制

## 地域と地球のこれからを見据えた 未来志向の取り組みへ

環境エネルギー分野で先進的な事業を展開しているパナソニック ホールディングス株式会社 取締役 副社長執行役員である宮部義幸氏に、現在重点的に取り組んでいる活動や、製造業として関西に期待していること、そして、これからのまちづくりに求められることなどについてお話を伺いました。

Mr. Yoshiyuki Miyabe

**宮部 義幸氏**

パナソニック ホールディングス株式会社 取締役 副社長執行役員

生年月日	1957年12月5日 大阪府出身	2015年 4月	同社 代表取締役専務 技術担当、知的財産担当、モノづくり総括担当、調達担当
1983年 3月	大阪大学大学院 工学研究科 修了	2021年 4月	同社 専務執行役員 東京代表、渉外担当、東京オリンピック・パラリンピック推進担当
1983年 4月	松下電器産業株式会社 (現パナソニックホールディングス株式会社)入社		(兼)東京オリンピック・パラリンピック推進本部長、ソリューション営業担当(兼)ビジネスソリューション本部長、統合型リゾート(IR)事業推進本部長
2003年 1月	同社 R&D企画室 室長	2022年 4月	パナソニック ホールディングス株式会社 副社長執行役員 東京代表、渉外担当、ソリューションパートナー担当
2008年 4月	同社 役員 デジタルネットワーク・ソフトウェア技術担当		
2011年 4月	同社 常務役員 技術担当		
2013年 4月	同社 常務取締役 AVCネットワークス社 社長		
2014年 4月	同社 代表取締役専務 AVCネットワークス社 社長		

### 大阪生まれの大阪育ちで 松下電器へ

○小縣:最初に、宮部副社長の自己紹介をお願いいたします。

○宮部:私は大阪生まれ、大阪育ち。大学卒業後、大阪に本社がある、当時の松下電器に入社。

これまで東京勤務を2回経験し、今では東京がベースになっていますが、60年間ほどは関西を中心に生活し、活動してきました。工学部の出身で、会社に入ってから長く技術を担当し、役員になってからは技術の担当役員や、技術的に難しい事案に携わっていたAVCネットワークス社というデジタル製品やシステム開発を行っている会社の社長などを経験。この2年程は渉外担当として、政財界、役所などとのインターフェース等をつなぐ仕事をメインに活動しています。そういった活動の一環として、前任の代表幹事からご指名を受けて、関西経済同友会の代表幹事を今年の5月から引き受けさせていただいています。

### 創業者である松下幸之助の 想いを今に受け継ぐ

○熊田:御社のスローガンでもあります「物と心がともに豊かな理想の社会の実現」に向けて取り組まれている御社の歴史や企業姿勢、関西とのご縁や発展を支えてきた御社の役割などをご紹介いただけませんかでしょうか。

○宮部:現在のパナソニックグループ、古くは松下電器器具製作所ですが、大正7年に大阪市福島区大開町という、野田阪神の近くの長屋の1つで、創業者、松下幸之助が、奥さんとその弟、井植歳男、後の三洋電機の創業者ですが、その3人で始めた会社が起源です。最近の言葉で言いますと、いわゆるガレージベンチャーです。創業者松下幸之助は、和歌山の裕福な農家の息子だったのですが、父親が米相場で失敗して、破産してしまい、尋常小学校を卒業しないうちに丁稚奉公に出されました。丁稚奉公で自転車屋さんなどいろいろな仕事に携わる中で、これからは電気の時代だと、まさに大阪に市電が走り始めた頃で、何か電気が大きく世の中を変えるというひらめきや直感があって、丁稚奉公先をやめて、大阪電灯という、関西電力の前身なのだそう

ですが、その会社で電気工事や工事の監督などの仕事をしていました。そうした仕事を行いつつ、もっと世の中の役に立つことができるのではないかと考えて、いろいろな提案をしたようですが、会社の中で実現することには限界があって、それで一念発起して会社を興した。その後、順風満帆にことが進んだわけではなかったのですが、当時、家の中には白熱電球を吊るすためのソケット=電灯しかなく、今では当たり前のコンセントがなかった。そこで、電灯以外の目的でも電気を使えるはずだということで、アタッチメントプラグをつけて2つに分電し、片方は電灯、片方は、例えば電熱線のないヒーターやアイロンなど、他の用途にも使えるように開発。今のインターネットに例えると、スイッチングルーターみたいなものですね。それらが世に出て用途が広がったことがきっかけで、相当のお金を稼ぎ、会社も大きくなりました。お金を稼ぐのを目的にしていたら、もう十分に達成したという状況であった昭和7年ごろ、「私は何のためにこの会社をやっているのだろう」という想いが生まれて、会社はその存在意義や目的などを明確にしないと行けないと考えた。今でいうパーパス経営ですね。そのときに、現代ふうに翻訳すると「物と心が」という言葉といますか思想が生まれました。当時はまだまだ物が足りない時代でしたので、多くの人に買ってもらえるようたくさん商品を提供して、より多くの人々を幸せにするために事業を展開することを会社の使命として据えてきました。ただ晩年には、それだけではいけない、例えば国の政治も変えていかなければいけないという想いで、個人で「松下政経塾」を立ち上げて、まさに「物とそれから心、全ての幸せというものを提供するため」に、自分の生涯を尽くしてきた。それが松下幸之助で

あり、そのような考え方が会社の理念として今に至り、さまざまな形で定着してきている。そのような会社だとご理解いただければと思います。

○小縣:今でこそ、社会課題の解決やESGなどが標榜されていますが、昭和7年からそうした取り組みを実践されていたということですね。

### エネルギー環境分野など 3分野に重点的に取り組む

○熊田:では、続きまして最近特に力を入れている分野について、モビリティやエネルギー環境分野などのまちな関係のある分野を含めて技術開発動向・商品のご紹介をお願いします。

○宮部:まず、以前から研究開発してきた、今実用化に至っているものとしては、電気自動車用のリチウムイオン電池があります。また、エアコンをヒートポンプという仕組みで温めたり、冷やしたりするメカニズムを使い、インバーターで制御する非常に効率の高い冷暖房システムを開発。ヨーロッパなどでは今でも化石燃料を地下のボイラーで燃やし、そのお湯でヒーターを温める仕組みですが、化石燃料を使わずに電気で作ろうとする流れが出てきました。そこで、我々のヒートポンプ技術を使った「Air to Water」という領域で、ヨーロッパを中心に事業を拡大しています。そして、水素を使った燃料電池も開発しています。燃料電池そのものを作っている工場が滋賀県の草津にあるのですが、その工場でするエネルギーを全て太陽光発電と燃料電池で賄う取り組みを行っています。ピーク時の電力は、燃料電池だけでも賄えますが、太陽光を活用できるときには太陽光発電も併用してい



ます。水素の価格や燃料電池そのものの価格などの課題がありますが、先だって政府の水素戦略が改定されたことを受けて、2030年の価格目標を、業界挙げて、あるいは業界横断で実現した暁には、市場が立上ることと思います。2030年以降のビジネスに備えて今一生懸命に取り組んでいます。DX(デジタルトランスフォーメーション)と合わせて、そのような環境エネルギー分野が大きく世の中を変化させる領域です。これらの重点分野に取り組んでいます。

## 環境エネルギー分野においては、製造業が盛んな関西にさらに期待

○小縣: 日々、カーボンニュートラルやネットゼロといった話題を目にしないうちがありませんので、これからの御社の役割には、たいへん大きなものを感じます。

○宮部: 当社では欧米のメーカーに部品を供給する事業も展開していて、欧米のサプライヤーやユーザーからは、現実問題として、いつまでにカーボンニュートラルにしないと取引を継続しないと、しっかりとカーボンニュートラルに向けたロードマップを出すように要求されます。中でも車業界からの要望が一番厳しく、当社のオートモーティブ事業では、クリーン電力を購入することで既にカーボンニュートラルを実現しています。産業界全般としても、いかにカーボンニュートラルに対応していくかが早急の課題ではあるものの、それはCFOや資金調達の話でしょう、といった感覚のところでは温度差があり、今のところ国内外での取り組みがあまり実現化できていない様に感じられます。ただ製造業が一番おしりに

火がついているという点では、現実問題として切実に取り組んでいるのではないかと思います。

私は東京の経済同友会などにも関わっていますが、製造業の会員は少ないです。参加されている数社でも東京都内に工場を持っているところはありません。一方、関西は製造業の比率も高いですし、また私どもですと関西の地域内にリチウムイオン電池の工場が和歌山にあり、燃料電池の工場も滋賀にあります。また、川崎重工さんやダイキンさんなどの企業もあります。例えて言えば、DXは六本木ヒルズでもできますが、GXは六本木ヒルズではできない。そういった意味では関西がもっと前に出ていっていいのではないかと期待しています。

## 地球と共存するという新しい価値を創出

○小縣: 少し話題を変えまして、大阪・関西万博へ期待すること、また御社のパビリオンなどの取り組みについてお聞かせいただけますでしょうか。

○宮部: パナソニックでは、単独で企業パビリオンを作るという決断を早々に行いました。先日、パビリオンの起工式を実施しました。そのパビリオンは、ドバイの日本館のデザインをされた建築家の永山祐子先生にご協力いただいています。テーマは「ノモノの国」。モノとモノではないものを引っかけています。グローバルには少し分かりにくいニュアンスかもしれませんが、日本で実施するのでいいかなと。その意味するところをうまく海外の方々に説明できたらと思っています。1970年大阪万博はモノがたいへんな勢いで進化する時代でした。この度

の大阪・関西万博の場合、これからの将来を見据えた先に、革新的な技術が生まれるかどうかということよりも、これまでの工業化社会の中で歪んできたところを元に戻すことへの取り組みにシフトし、そこに新たな付加価値なり、事業価値を見出していく。そういうマインドチェンジをするような場を、特に小さなお子様、アルファ世代といわれているお子様に向けて発信したい。そうしたお子様たちが大きくなるにつれて、2025年、パナソニックパビリオンでこんなものを見たなということをお願いしていただけのようなことができるということを理想として頑張っています。

○小縣: 今日出席のメンバーも1970年大阪万博の記憶が色濃く残っていることと思います。



○宮部: 体験したことをどのように記憶として残してもらえるかを大切に考えたいと思います。

モノとモノでないものについても関係しますが、世の中に第一次産業しかない時代ではあまり環境問題はなかった。ところが産業革命が起きて、第二次産業が勃興し、水質汚染や土壌汚染、大気汚染などが問題になりましたが、現代ではCO2による地球環境問題へと拡大しています。これらはすべて、人類がもたらしたこと。仮に人類が今日絶滅すれば、地球環境は元に戻っていくはずですが。

そのように考えると、第二次産業を中心に発展してきた私どもとしては、今後事業を展開するにあたって、地球と共存するという新しい価値の創出を目指す方向に徹底的に切り替えなければいけないと思います。そうしたことを少しでも大阪・関西万博で共有できればという高い目標を持って取り組んでいます。

## 地域の個性と地球への配慮が、今後のまちづくりには必要

○熊田: 今の話とつながるところも多いですが、これからのまちづくりへの展開、展望という視点で、技術、商品から見たライフスタイルの変化や、インフラへ与える影響への見立てなどについてお考えをお聞かせ願えますでしょうか。



○宮部: まちづくりにおいて大切なポイントとして、ひとつは、時代の変化の中で、都市や地域の個性をいかに出していくか、その個性をどのように表現していくかということ、今から考えておかないといけないのではないか。モノの世界における大量生産のように、どこの家にも全く同じテレビや冷蔵庫があるという画一的な生活様式ではなく、多様な価値観に対応した暮らしができるように取り組んでいくことと同じで、都市開発も大量生産的な感覚で行うと、どこの駅を降りても、どこの空港で降りても、どこでも同じになってしまう。そうした都市や地域の個性はハードウェアだけではなく、そこで暮らしている方の個性だと思うのですが、そうした個性をいかに演出していくかということが大事なのではないかと思います。もうひとつは環境への配慮です。このところ災害級の暑さが続いているのですが、その要因として、都市や地域において、いろいろなエネルギーが消費されて熱が出ているということに加えて、緑や風の流れなどが果たしていた役割が薄れたまちづくりになっているということもあるのかもしれないと思います。したがって、まちづくり自体も、地球をいじめないとか、住む人たちをいじめないとか、そういうことに最大限配慮したつくり方に変わっていく必要があるのではないかと思います。そうした地域の個性と、地球への配慮が、これ



からのまちづくりには必要になってくるのではないかと思います。

## 「CITÉさろん」へのご意見やエール

○小縣: 最後に「CITÉさろん」では、都市開発やまちづくりに関する提言活動も行なっています。

「CITÉさろん」の活動へのご示唆やエールなどをいただけませんか。

○宮部: 関西を中心に考えた際、今後いかに関西の個性を打ち出していくか。関西イコールタコ焼きだけではないでしょう。粉もんだけではないでしょう。もっと関西の個性の出し方があると思いますので、そこをしっかりと考えていくことが大切ではないでしょうか。

歴史的に見ると、大正時代に関東大震災があって、東京が一時期都市機能を失ったことを受けて、関西が発達し、大阪が栄えた。その頃建てられた建物は、立派なものばかりで、今でも残っています。東京では明治時代に建てられたものが多いのですが、昨今の再開発では、そうした建造物も残して、少なくともイメージだけは生かしていると思います。大阪でも、今あるイメージの中で残すべきものがどういふものであって、新しく作っていくものの中にどう個性を持って再生させられるか、文化的な側面も含めた議論をしてまちを作っていくということが大切かと思っています。

古典芸能や芸術、スポーツなど、それらコンテンツを支援していく循環をつくることによって、暮らしている人、訪れる人が喜べ

るまちづくりをしていかないといけない。そうした取り組みによって、30年前の元気ある関西に戻していく必要があります。失われた30年のレポートではなく、30年前に「CITÉさろん」ができた頃の志に立ち返り、先人がつくってくれたこの枠組みを生かしながら、今後どのようにアプローチしていくかをメンバーの皆さんが考えることで、本来、この組織が持っていた目的が、今後も生かされていくのではないかと思います。原点に立ち返って目的を再確認しつつ、これからの時代に求められるアプローチでご貢献されることがあれば、将来にわたってもこの「CITÉさろん」があるから関西はやはり違うのだなと思っただけなのではないでしょうか。



インタビューー CITÉさろん 広報委員会委員  
小縣 一隆氏  
住友電設株式会社 執行役員  
営業本部副本部長  
CITÉさろん ソト研メンバー  
熊田 瑤子氏  
関西電力株式会社 ソリューション本部  
法人営業第一部東京G 担当部長

取材日 2023年7月24日(月)10:00~11:00

※新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けて、マスク着用を行わずにインタビュー及び撮影を行いました。

テーマフォーラム

# 大阪・関西万博に向けたVISIONの共有へ

日本国際博覧会の関係者に集まって頂き、大阪・関西万博への民間企業の(出展や協賛以外の)参加方法について議論しました。特に、ビジネス交流の場としての万博活用可能性について大いに盛り上がり、そのためのプラットフォームの必要性や、会場外のビジネス、イベント交流や、会期後のまちづくり展開についても積極的な議論を交わすことができました。

基調講演

## 大阪・関西万博の最新の動向

尾植 正順氏  
大阪府・大阪市万博推進局理事

●—— 地域連携タスクフォースの設置

開催まで後2年に迫った日本国際博覧会の主催者、関係者をお招きし、「CITÉさろんとの官民共創手法を考える」と題して、出展や協賛に留まらず、民間企業が万博に参加する方法について、幅広く議論しました。



はじめに、大阪府・大阪市万博推進局の尾植理事から、大阪・関西万博の準備状況について紹介頂きました。コンセプト、府市パビリオンの概要や、舟運や空飛ぶクルマ等のアクセス手段、未来社会ショーケース事業等について、包括的に幅広くご説明頂きました。特にプロモーションについては、「地域連携タスクフォース」を設置して、府下の自治体や企業と連携した万博イベント振興に取り組んでいる、とのことでした。

パネルディスカッション

## CITÉさろんとの官民共創手法を考える

モデレーター:水方 秀也氏  
パネラー:尾植 正順氏・西本 敬一氏・田中 雅人氏

●—— 経済ビジネス重視型の万博へ

初めに、日本国際博覧会協会・経営企画室の西本上席審議役より、万博の移り変わりを説明して頂きました。元来、万博の使命は商業的ではないものの、近年、社会課題解決をテーマとするようになり、ビジネスこそが課題解決に貢献する、というわけで、万博とビジ



ネスの関係が深まっています。2021年のドバイ万博では経済ビジネス重視型の外国パビリオンが増えました。フランス館やマレーシア館ではビジネスフロアを設け、毎日のようにビジネス交流が図られていました。ドバイ商工会議所によれば、会期5か月で60ヵ国3356人の代表団を受け入れ、地元企業の7割以上が新たな関係を構築できたとのこと。大阪の企業も積極的に各国の政府、代表団等との交流を勧められました。

以上を受けて、CITÉさろんの田中会長や会場参加メンバーを交えて、会期中の①会場内、②会場外、また、③会期後に分けて、万博への参加のあり方について、ディスカッションしました。

●—— 会期中の会場内について



○尾植理事: 地元自治体館の「大阪ヘルスケアパビリオン」も、施設は公共整備だが、展示、運営は企業が担っている。ドバイを参考に、パビリオン内にビジネス交流施設を確保した。

○田中会長: 万博をただの技術展示イベントに留めず、自分達のビジネスに繋げる姿勢が望ましい。そのためには、会期前から、万博に参加する企業や人を紹介するプラットフォームが必要では。

○西本上席審議役: 少なくとも、各国の展示内容は協会がしっかり情報提供していく。実際、ドバイでは、日産が会期中に万博会場外でディーラー会議をやっていた。周辺も含めて色々可能性はある。

●—— 会期中の会場外について

○尾植理事: 各国政府は会場外でのプロモーションを希望している。ポーランド政府は、演奏会等をやりたい、とのこと。こちらから例えばなんば駅広等での街角コンサートを提案した。皆さんも協力頂ければ。



2023年5月16日(火) 15:20~17:40 オービックホール オービック御堂筋ビル2F

- ◆開会挨拶(15:20) / 水方 秀也氏(CITÉさろん 研究活動委員会委員長)
- ◆基調講演(15:40~16:20)  
「大阪・関西万博の最新の動向」 / 講師: 尾植 正順氏(大阪府・大阪市万博推進局理事)
- ◆パネルディスカッション(16:30~17:30)  
「CITÉさろんとの官民共創手法を考える」  
モデレーター: 水方 秀也氏(CITÉさろん 研究活動委員会委員長)  
パネラー: 尾植 正順氏(大阪府・大阪市万博推進局理事)  
西本 敬一氏((公社)2025年日本国際博覧会協会 経営企画室 上席審議役)  
田中 雅人氏(CITÉさろん 会長)
- ◆クロージング / 上田 徹氏(CITÉさろん 研究活動委員会担当副会長)

○西本上席審議役: ドバイと違って日本は国土が大きく、魅力的な地域がたくさんあるので、各国政府は会期中に色々遠出したい。自治体や企業は、積極的に受け入れて欲しい。日本政府も「万博交流イニシアチブ」という施策で後押ししている。

○田中会長: 万博会場内はインデックスで、実際に見てもらうのは会場外の各地域、くらいできれば良い。会期後に定着させるために、我々が関わるエリマネ団体が支援することも考えられる。

●—— 会期後について

○尾植理事: いのち、SDGsといった万博のテーマ自体が、会期後の大阪のまちづくりに繋がっていくだろう。それらを通じて、都市の価値を上げて、飛躍していきたい。

○西本上席審議役: ハノーバー万博はメッセ都市のリニューアルという目的については大成功だった。ドバイ万博もイノベーションスマートシティの起爆剤だった。大阪も万博を通じたまちづくりを長期的視点で考えることが大事。ソフトレガシーも大事。

○田中会長: 日本が売れるまちづくりコンテンツは「安心安全」だと思う。会場内外で安心安全を提供し、ビジネスに繋げていきたい。

●—— 質疑応答

○松本副会長: 目から鱗が落ちた。海外の方々明確なビジネスの目的を持って来られるのだから、そのチャンスを逃してはいけない。大阪としては、今後のMICE都市の訓練や新たなまちづくりテーマを考えるきっかけにもなるだろう。とはいえ、どんな方がいつどこに来られるのか良く分からないので、迎え入れ、繋ぐ仕組みが欲しい。

講師・パネラー 尾植 正順氏  
大阪府・大阪市万博推進局理事

1965年生まれ。1991年大阪市採用。2012年より建設局道路部道路維持担当課長を歴任し、2017年より都市整備局区画整理担当部長、建設局街路担当部長、建設局企画部長、経済戦略局理事を経て、2022年1月に万博推進局理事(現職)に就任。



○尾植理事: 今後、官民で一緒に考えていきたい。公共側からの一方的な形ではないと思う。

○西本上席審議役: まだ各国建物を建てるのに必死。落ち着いたら今後、情報を共有する仕組みを考えたい。

○白水副会長: 未来のことを考えて、若い人たちをどう巻き込むか、教えて頂きたい。

○西本上席審議役: 小中高は誘客計画があるが、今、大学がエアポケットになっている。皆さんからもアイデアを出して欲しい。

○久保田副会長: 子供たちへの誘客はどんなものか。

○西本上席審議役: 具体的には、修学旅行、遠足の誘客である。また、各パビリオンも子供たちを受け入れる企画を考えていくように思う。

●—— CITÉさろんからのメッセージ

クロージングとして、上田副会長から以下のお話を頂きました。



・ビジネス型に変化した万博を大阪・関西で開催できるのは大事な機会である。  
・参加各社は、経営方針に万博を組み込むべきである。  
・CITÉさろんはそのための学びの機会を提供したり、盛り上げていく支援をしたい。

(研究活動委員会: 水方)

パネラー 西本 敬一氏  
(公社)2025年日本国際博覧会協会 経営企画室 上席審議役

1965年生まれ。1988年ジェットロ入会。米国やドイツ、オーストリアに駐在。2000年ハノーバー万博日本館で総合プロデュース業務に従事。以来四半世紀にわたり、全ての登録簿を視察した他、ドバイ万博を現地調査し、全192パビリオンを分析調査。2022年8月から日本国際博覧会協会に出向し現職。



## 圏域研究会 中間成果報告会

圏域研究の中間報告会を開催しました。圏域全体で働く場の多様化が進展、今後は、多くの選択肢からより良い生き方を選べる「幸福生活圏」を目指すべき、という成果を得られました。ゲストからも多くのアドバイスを頂き、会は大いに盛り上がりました。

3  
27  
Mon

2023年3月27日(月) 16:00~17:30  
 ゲストコメンテーター: 奥田 晃久氏(国土交通省 近畿地方整備局企画部長)  
 寺本 譲氏(大阪市計画調整局長)  
 青木 高氏(大阪大学大学院工学研究科助教)  
 会場: 北浜フォーラム 2階

covid-19後の京阪神都市圏の将来像を調査・研究する「圏域研究会」。その2年間に渡る活動の成果発表として、「中間報告会」を開催しました。ゲストとして、これまで助言指導を頂いた国土交通省近畿地方整備局の奥田企画部長、大阪市計画調整局の寺本局長、西江部長、大阪大学大学院工学研究科の青木助教をお招きしました。はじめに、U-40ワークショップを代表して、中央復建コンサルタンツの中村さんから報告頂きました。将来の圏域において重要となるサードプレイスを実際に幾つか調査し、そこには、居心地の良さ、日常との違い、場の可塑性、が大事、との見解を纏められました。次に、研究を委託していた三菱UFJリサーチ&コンサルティングの沼田主任研究員から、全体活動報告を頂きました。22年度は、3回の有識者セミナー、丹波篠山市等の事例視察、データ分析等を実施しました。ICTの進展、covid-19後の社会変化、京阪神の豊かな郊

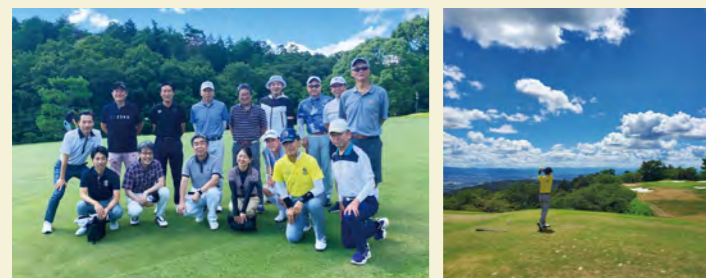
外・田園ポテンシャルにより、圏域全体で働く場の多様化が進展、今後は、多くの質の高い選択肢の中から、より良い生き方を選べる「幸福生活圏」を目指すべき、という成果を得ました。そのために都心、郊外、いなか、それぞれの魅力向上、圏域内で自由に動ける交通システム、全域での多様なサードプレイスの必要性を共有しました。ゲストの方々からは、大きな方向性に賛同頂きつつ、更なる研究の視点として、サードプレイスの概念再考、脱炭素や防災の影響、covid-19の総括等、の助言を頂きました。23年度以降、ご指摘を踏まえつつ、郊外の価値再考、幸福概念の深堀を軸に、圏域研究を続けて参ります。

(研究活動委員会:水方)



## 第1回親睦ゴルフコンペ

2023年8月5日(土)  
ベニーカントリー倶楽部



2023年度第1回親睦ゴルフコンペは、初参加3名を含む総勢16名にご参加頂き、大阪・島本町の「ベニーカントリー倶楽部」で開催いたしました。同倶楽部は1974年開業、大阪と京都の中間の標高400mに位置するいわゆる山岳コース。スコアメイクにはご苦労されたかと思いますが、特にアウト5番での北河内から京都市街まで広がる眺望は素晴らしいものでしたね。夏真っ盛り8月初旬の開催となり、暑さとの闘いの様相もありましたが、全員無事に楽しくラウンドを終えることができました。ご参加頂いた会員の皆さま、今回も準備にご尽力頂いたNTT都市開発大堀さん、アーキエムズ安田さんに御礼を申し上げつつ、12月開催予定の第2回親睦ゴルフコンペへの奮ってのご参加をお願い申し上げます。(総務委員会:橋本)

## ワークショップの進捗レポート

WS  
1

### 価値変化に伴う移動の本質を再考する

座長: 吉田 長裕氏  
(大阪公立大学 大学院准教授)  
参加者: 25名



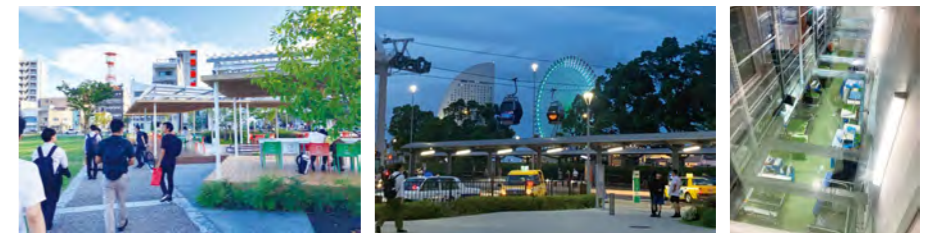
大阪はじめ今後の価値変化に対応する移動のあり方や手段、ビジネスモデル等について3つの班に分かれて調査検討を進めている。今夏は、各班独自に、

- 水運と水辺開発の観点から「大正タグボート」の視察ヒアリング
- 空港と新たな役割の観点から「羽田イノベーションシティ」の視察ヒアリング
- 新しい移動手段と新ビジネスモデルの観点から「LUUP」のヒアリング 等を実施し、現状と課題の把握を実施した。具体事例から、移動の機能・役割とマネジメント状況の課題、また、まちづくり上の課題等について整理をし、得られた情報等を基に各班の提案作成にあたって詳細な検討を進めている。

WS  
2

### エキサイティング・シティ・オオサカをどう実現するか

座長: 山口 敬太氏  
(京都大学 大学院准教授)  
参加者: 25名



「エキサイティング・シティ実現に向けてどのような提案をするか」を目標に、4つの班に分かれて調査検討を進めている。

- 今夏は、各班独自に、
- 天王寺周辺地区(天王寺駅、てんしば等)の視察調査
  - 愛知県岡崎市・乙川リバーフロントの視察調査
  - 湘南アクボニ農場、ヨコハマエアキャビン
  - 柴島浄水場、放出下水処理場、大阪公立大学植物工場研究センター 等
- 具体施設の現状と課題等を把握すべく視察・ヒアリングを実施した。得られた情報等を基に、エキサイティング・シティ実現に向けた各班の提案作成に向けてその詳細や新たな要素等の検討を進めている。

WS  
3

### 都市部の再生可能エネルギー源を探せ！循環型ゼロカーボンCityへの道

座長: 鍋島 美奈子氏  
(大阪公立大学 大学院教授)  
参加者: 19名



都市内の既存再生エネルギー施設の視察・ヒアリング(アベノハルカス、海老江処理場)をし、再生可能エネルギー源の調査検討を深め、WS内を3つのチームに分けて、厨芥ゴミの活用に関してチーム毎に検討を実施した。

- [制度・教育・普及]担当チーム: 厨芥ごみを活用した再生可能エネルギーの普及に向け、経済性、社会的評価、法規制緩和、技術的根拠等、最終の提案に向けた下地整理を担当。
- [新技術の調査]担当チーム: メタン発酵技術の状況、エリア内のゴミ運搬・収集及び分別での各システム上の課題抽出を実施するなど、最終提案での技術上課題抽出等の整理を担当。
- [効果試算]担当チーム: 大阪IR施設計画から発生する厨芥ゴミ処理量の試算表の整理から、同施設の厨芥ゴミ処理量の試算(概ね5.6t/日)等、効果測定での間接的便益評価等の整理を担当。

8月、大阪ガスより講師を招き、再生エネルギー施設の現状と課題についてヒアリングを行った。

お世話になった前任の方々からメッセージが届いています

CITÉさろん 前会長 **和田 真治氏** (南海電気鉄道株式会社 執行役員 経営戦略グループ eスポーツ事業部長)

広報委員会幹事から副会長を3年間、会長を3年間、お世話になりました。特に会長職の任期中は、コロナ禍と重なり、30周年の節目を迎えるタイミングでございましたが、素晴らしい会員と事務局の皆様のおかげで、手さぐりながら、リアルとリモートのハイブリッドな運営を実施するなど、振り返れば貴重な経験となりました。結果、「正直やっぱりCITÉさろんの活動はリアルに勝るものはない。」と実感したところであります。

これからの時代、一つの組織の一員というだけでなく、個人としてどう社会の中で行動するかなど、組織と個人の関係性はこれまで以上に変わると思います。その中で、日本において他に例のない、官民連携での複数企業が集まった、まちづくりをテーマとしたこのCITÉさろんの存在価値がますます大きくなっていくはずです。次の30年、50年に向け、これまで通り、時代に先駆けたテーマに、会員の皆様が、自分事として取り組まれますことを期待しております。引き続きよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。



CITÉさろん 前分科会活動委員会 委員長 **奥野 雅弘氏** (阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 交通プロジェクト推進部長)

2015年に指定代理人として参加し、2017年からは幹事に就任し、分科会活動委員会に所属させていただきましたが、この3月末で退任させていただきました。この間各社からの選抜メンバーによるワークショップ活動に関与させていただいたことは何よりの刺激になりました。さらにソト研という新しい試みに参画し、普段とは異なったメンバーに囲まれ、常に目新しい視点を提供してもらい、ダイバシティの大切さについて実感させていただきました。

また、ここ数年face-to-faceの機会が減ったことが非常に残念ですが、最近ようやく復活しその重要性が身に染みんでいます。CITÉさろんは単なる異業種の交流会という枠を超えたつながりを作る場で、噛めば噛むほど味の出る『するめ』のような集まりであると思っています。参加企業所属の皆様におかれましては、せっかくの良い機会ですので、各種イベントへの出席と交流を通じて人生の深みにつながっていただくようお願いして退任の挨拶とさせていただきます。



新しい役員のみなさんからのメッセージが届いています

CITÉさろん 会長 **田中 雅人氏** (大阪ガス株式会社 大阪・北部地区統括支配人)

30年の歴史を誇るCITÉさろんの会長を仰せつかることとなり、背筋がピンと伸びる思いです。良き伝統を受け継ぎ、当会の更なる発展に向け、誠心誠意、精進して参る所存です。大阪市さんのご支援の下、53社の会員企業のみなさんと共に、机上の検討にとどまらず、まちへ一石を投じるアクションやムーブメントを起こしていきたいと思っております。そして、会員のみなさまが、「明日もCITÉさろんの活動に参加したいな」と思えるような組織と活動内容にしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



CITÉさろん 副会長 **久保田 晃司氏** (阪神園芸株式会社 代表取締役社長)

実は、昨年10年ぶりにCITÉさろんに戻ってきたのですが、活動がさらに活発、多様になり、皆さんの創造力あふれる取り組みに大いに刺激をいただいています。今年は、都市格研が10年目を迎え、これまでの活動成果を振り返るとともに、大阪・関西万博を見据えたまちの多様な魅力について研究を深めていきます。ワークショップ活動の年度末のとりまとめに向けた活動の成果、新たな視点で研究活動を行っていただいている「ソト研」の情報発信にも期待です。新たな時代のまちづくりについて、皆さんで考えましょう。



CITÉさろん 分科会活動委員会 委員長 **谷 貴文氏**  
(西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部 交通まちづくり戦略部 沿線まちづくり部長)

2016年の幹事就任以来、研修会や研究会等様々なイベントへの参加を通じて「まちづくり」の人脈を広げ、知見を深めさせていただいて参りました。官民学がフラットかつ高い見識を有し連携するCITÉさろん活動に少しでも恩返しができるよう、委員の皆様と協力しながら、分科会活動委員会が主催するワークショップや研究会活動を通じて、会員企業の皆様の人財育成や企業活動のお役に立つ、大阪・関西の発展に寄与する活動をして参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



今後の主なイベント・スケジュール

分科会活動委員会・広報委員会

- ◆第1回 大阪都市格研究会  
大阪都市格研究会の10年 ～研究成果レビューと再提案～  
2023年9月21日(木) 16:00～18:00  
会場:大阪府立中之島図書館(別館) 多目的スペース3  
座長:角野 幸博氏  
(大阪都市格研究会座長/関西学院大学建築学部 教授)  
講師:Xin Suzuki氏  
(GONENGO LLC CEO)

研究活動委員会

- ◆プロジェクト見学会  
2023年9月25日(月) 15:00～17:00  
視察先:センタラグランドホテル大阪  
(なんばパークスサウス内)
- ◆圏域研究会キックオフミーティング  
2023年9月27日(水) 16:00～17:30  
会場:伊藤佑クリエイティブセンター 3階B1  
講師:青木 嵩氏  
(大阪大学大学院工学研究科  
地球総合工学専攻建築・都市人間工学領域 助教)  
基調講演:(仮題) 郊外を「郊外」で語らない  
～京阪神都市圏の郊外をミガク先に見える未来社会～

広報委員会・分科会活動委員会

- ◆第1回 トークセッション  
大阪都市格の再発信 ～見つめ直す大阪 大阪と世界をつなげる～  
2023年10月17日(火) 17:00～18:30  
会場:大阪府立中之島図書館(別館) 多目的スペース3  
<講演>  
講師:茶田 誠一氏  
(みちトラベルジャパン株式会社 代表取締役)  
『海外インバウンド富裕層の日本の見方、その延長線上にある「持続的に選ばれるまち」とは』  
<意見交換>  
アドバイザー:角野 幸博氏  
(大阪都市格研究会座長/関西学院大学建築学部 教授)

総務委員会

- ◆幹事研修会  
2023年10月27日(金)～28日(土)  
視察先:北海道 エスコンフィールド
- 分科会活動委員会・広報委員会
- ◆第2回 大阪都市格研究会  
東大阪「こーばへ行こう!」実体験WS  
2023年11月17日(金) 15:00～予定  
会場:共和鋼業株式会社・東大阪工場 予定  
座長:角野 幸博氏  
(大阪都市格研究会座長/関西学院大学建築学部 教授)  
講師:森永 耕治氏  
(共和鋼業株式会社 代表取締役)



## Member's List 会員リスト

計53社 (50音順)

## Event Calender 2022・2023年度 CITÉさろん イベント・カレンダー

### ■2022年度

3/3	金	15:00	◆第3回大阪都市格研究会	分科会	滋賀県大津市 SGパーク
3/27	月	16:00	◆園域研究会 2021-2022中間成果報告会	研究活動	北浜フォーラム (オンライン開催)

### ■2023年度

4/12	水	15:00	◆2022-2023年 WS1 (第4回)	分科会	10ブレース (オンライン開催)
4/14	金	15:00	◆2022-2023年 WS2 (第4回)	分科会	大阪府立中之島図書館 別館「多目的スペース3」(オンライン開催)
4/17	月	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第5回)	分科会	10ブレース (オンライン開催)
4/20	木	15:30	◆定例幹事会	総務	AP大阪淀屋橋 4階 北Bルーム
5/16	金	14:00	◆臨時幹事会	総務	オービックホール 2階
		14:30	◆第32回定例総会	総務	
		15:20	◆テーマフォーラム	研究活動	
6/13	火	15:00	◆2022-2023年 WS2 (第5回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
6/14	水	15:00	◆2022-2023年 WS1 (第5回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
6/23	金	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第6回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
6/30	金	11:00	◆常任幹事会	総務	CITÉさろん事務局
7/27	木	16:00	◆7月定例幹事会	総務	御堂会館
8/5	土		◆第1回親睦ゴルフコンペ	総務	ベニーカントリー倶楽部
8/29	火	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第7回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
8/31	木	13:00	◆常任幹事会	総務	CITÉさろん事務局

### ■予定

9/8	金	15:00	◆2022-2023年 WS2 (第6回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
9/13	水	15:00	◆2022-2023年 WS1 (第6回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
9/21	木	16:00	◆第1回大阪都市格研究会 体験&セミナー	分科会・広報	大阪府立中之島図書館 別館「多目的スペース3」
9/25	月	15:00	◆プロジェクト見学会	研究活動	セントラグランドホテル大阪 (なんばパークスサウス内)
9/27	水	16:00	◆園域研究会 キックオフミーティング	研究活動	伊藤佑クリエイトセンター B1
10/17	火	17:00	◆第1回トークセッション	広報・分科会	大阪府立中之島図書館 別館「多目的スペース3」
10/23	月		◆10月定例幹事会	総務	調整中
10/27	金		◆幹事研修会	総務	北海道 エスコンフィールド
11/17	金	15:00	◆第2回大阪都市格研究会 「こーばへ行くこう!」実体験WS	分科会・広報	東大阪市
12/2	土		◆第2回親睦ゴルフコンペ	総務	調整中
12/20	水		◆12月定例幹事会	総務	調整中

## 編集後記

CITÉさろんでもリアル交流が増し、まちの動きもコロナ禍前の様相を取戻す感があります。

リアル交流の重要性を感じる一方で、コロナ禍で一気に進んだデジタル化。今後DXが社会に浸透し、まちづくりのハード・ソフトも変化していくように感じます。今回のリーダーズインタビューは、DXの先端に行くパナソニック様です。既に過去にインタビューを受けておられると思いきや、初めてとの事でした。さて、今年度も半分を過ぎ、各委員会事業が多数実施されます。今後も皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

(事務局)

表紙提供: パナソニック ホールディングス株式会社

## シテ・レトル 2023年 9月号 Vol.88

発行/CITÉさろん事務局

〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5

船場センタービル5号館2階

一般財団法人 都市技術センター内

企画/CITÉさろん広報委員会

編集/ADTOWER